

コベルコ建機(株) 現行生産機におけるクローラークレーンのつり荷走行時のクレーン能力設定状況一覧表

No.	機種名	静止つり時 最長ブーム長さ	つり荷走行時のクレーン能力設定(○:STD,△:OPT,×:設定なし)			推奨能力		取扱説明書記述		つり荷走行能力 設定姿勢	荷重検出と 停止方法	つり荷走行能力M/Lへの切替方法	つり荷走行時の走行速度自動制限と 速度に関する注意事項
			荷重表	最長ブーム長さ	M/L	推奨能力	ブーム長さの制限	取扱い時の注意事項					
1	CK80UR-3	10.80m	○※1	5.99m	○	定格総荷重表	5.99m 以下	○(安全=原則禁止 やむを得ず実施する場合の取扱方法)	クレーン主吊り	静止つり時と同じ	M/Lのスイッチを「走行つり」に切替え、走行つりモードに設定する。	走行速度の自動制限機能はなし。 1.4 km/h (1速) 以下で行う。	
2	CK90UR-3	14.77m	○※1	9.51m	○	定格総荷重表	9.51m 以下	○(安全=原則禁止 やむを得ず実施する場合の取扱方法)					
3	CK120UR-3	14.77m	○※1	9.51m	○	定格総荷重表	9.51m 以下	○(安全=原則禁止 やむを得ず実施する場合の取扱方法)					
4	TK550G	30.1m	○※2	16.7m	○	定格総荷重表	16.7m 以下	○(「原則禁止」@1.安全、実施する場合の各注意事項@7.資料編	クレーン主吊り クレーン補吊り	静止つり時と同じ	M/Lの「つり荷走行スイッチ」を押し、つり荷走行モードに設定する。	つり荷走行モードに設定時は、走行速度が0.5km/h以下に制限される。 走行は、低速(0.4 km/h)以下でつり荷に振動を与えないように行う。	
5	TK550GSB	20.9m	○※2	12.1m	○	定格総荷重表	12.1m 以下	○(「原則禁止」@1.安全、実施する場合の各注意事項@7.資料編					
6	TK750G	30.1m	○※2	16.7m	○	定格総荷重表	16.7m 以下	○(「原則禁止」@1.安全、実施する場合の各注意事項@8.資料編					
7	TK750GFS	30.1m	○※2	16.7m	○	定格総荷重表	16.7m 以下	○(「原則禁止」@1.安全、実施する場合の各注意事項@8.資料編					
8	BM800G-2	54.9m	○※2	27.4m	○	定格総荷重表	27.4m 以下	○(安全=原則禁止、資料編=原則禁止、やむを得ず実施する場合の取扱方法)	クレーン主吊り クレーン補吊り	静止つり時と同じ	M/Lの姿勢設定で「つり荷走行」を選択し、つり荷走行モードに設定する。	走行速度の自動制限機能はなし。 走行は、低速(0.5 km/h)以下でつり荷に振動を与えないように行う。	
9	BM1000G-2	62.6m	○※2	29.1m	○	定格総荷重表	29.1m 以下	○(安全=原則禁止、資料編=原則禁止、やむを得ず実施する場合の取扱方法)					
10	BM1500G	61.0m	○※2	30.5m	○	定格総荷重表	30.5m 以下	○(安全=原則禁止、資料編=原則禁止、やむを得ず実施する場合の取扱方法)					
11	7050G-2	51.8m	×	×	×	1/3以下	最長の1/2以下	○(安全=原則禁止、資料編=原則禁止、やむを得ず実施する場合の取扱方法)	推奨：クレーン主吊り/補吊り				
12	7070G-2	54.9m	×	×	×	1/3以下	最長の1/2以下	○(安全=原則禁止、資料編=原則禁止、やむを得ず実施する場合の取扱方法)	推奨：クレーン主吊り/補吊り				
13	7090G-2	62.6m	×	×	×	1/3以下	最長の1/2以下	○(安全=原則禁止、資料編=原則禁止、やむを得ず実施する場合の取扱方法)	推奨：クレーン主吊り/補吊り				
14	7120G-2	61.0m	×	×	×	1/3以下	最長の1/2以下	○(安全=原則禁止、資料編=原則禁止、やむを得ず実施する場合の取扱方法)	推奨：クレーン主吊り/補吊り				
15	7120G-2FS	61.0m	×	×	×	1/3以下	最長の1/2以下	○(安全=原則禁止、資料編=原則禁止、やむを得ず実施する場合の取扱方法)	推奨：クレーン主吊り/補吊り				
16	7200G-2	73.2m	×	×	×	1/3以下	最長の1/2以下	○(安全=原則禁止、資料編=原則禁止、やむを得ず実施する場合の取扱方法)	推奨：クレーン主吊り/補吊り				
17	SL4500J-2	72.0m	×	×	×	-	-	○(安全=原則禁止)					
18	SL6000J-2	84.0m	×	×	×	-	-	○(安全=原則禁止)					
19	SL16000J	85.0m	×	×	×	-	-	○(安全=原則禁止)					

※1) JCAS2005-2007 油圧ショベル兼用屈曲ジブ移動式クレーンつり荷走行時の安定度に関する指針をベースに能力設定。ブーム長さは伸縮の3段相当まで。

※2) JCAS 2002-2002 クローラークレーンのつり荷走行時の安定に関する指針をベースに能力設定。

コベルコ建機(株) 現行生産機におけるクローラクレーンのつり荷走行時のクレーン能力設定状況一覧表（取り扱い時の注意事項）

取扱説明書記述	
機種名	取扱い時の注意事項
<p>CK80UR-3 CK90UR-3 CK120UR-3</p> <p>定格総荷重は1460 kg以内を厳守してください。：CK80UR-3 定格総荷重は2000 kg以内を厳守してください。：CK90UR-3、CK120UR-3</p> <p>• 吊り荷走行時は非常に不安定で危険を伴うため、前進方向で行ってください。 • 吊り荷走行の前にモーメントリミッタは、走行吊りにスイッチを切換え走行吊りモードに設定してください。</p> <p>定格総荷重は、静止状態で荷を吊り上げてから水平堅土上で走行できる総荷重の最大値です。 また、傾斜している場所や地盤が軟弱な場所では、吊り荷走行を行わないでください。 • 吊り荷走行は荷が振れないように荷の高さを地面近く保持して、急発進・急停止や急な進路変更等の操作は行わないでください。 • 吊り荷走行中に、荷も巻き上げ、巻き下げやブームの起伏・伸縮および旋回等の操作は行わないでください。 • 吊り荷走行中の速度は1.4 km/h (1速) 以下にしてください。</p> <p>【警告】</p> <p>• 走行時の吊上荷重は、静止の状態です。この場合、吊り荷が振れないように地面近くに荷を保持し、急発進・急停止・スピッター等の操作は行わないでください。 吊り荷走行の前にモーメントリミッタは走行吊りにスイッチを切換えてください。 • 吊り荷走行中に、荷も巻き上げ、巻き下げやブームの起伏・伸縮・旋回等のクレーン操作は行わないでください。 • 吊り荷走行中の速度は、1.4 km/h (1速) 以下にしてください。</p>	<p>TK550G TK550GSB TK750G TK750GFS</p> <p>• 事前に誘導者を決め、その指示に従って走行してください。 • 路面の平坦な状態の場所で行ってください。 傾斜している場所や地盤が軟弱な場所では、つり荷走行を行わないでください。 • つり荷は低い位置しに、荷振れしないように支持してください。 • 走行路面の状況として突起高さが20 mm以下の路面でのみつり荷走行が可能となります。 • つり荷の巻き上げ高さは、地面から300 mm以下とし、地面にできるだけ近い状態にしてください。 • つり荷が万が一振れた場合は、つり荷をいったん地面に降ろし、振れを止めてから再度巻き上げてください。 • 走行は、低速(0.4 km/h)以下でつり荷に振動を与えないように行ってください。 • 走行は、クローラの前進方向で行ってください。 • つり荷は、前方つり姿勢(クローラの前進方向)にしてください。 • 走行中は、巻き上、ブーム起伏および旋回はしないでください。 • 旋回ロック、旋回ブレーキをかけてください。</p> <p>• つり荷走行が可能なブーム長さは、10.0 m～16.7 mです。：TK550G、TK750G、TK750GFS • つり荷走行が可能なブーム長さは、7.7 m～12.1 mです。：TK550GSB</p> <p>• 電線の下などを通過するときは、十分な間隔をとってください。 • つり荷をつまま機械を方向変換しないでください。 機械を方向変換するときは、つり荷をいったん地面に降ろしてください。 方向変換に必要なだけ巻き上ロープを繰り出し、巻き上ロープをゆるめ、機械に負担をかけないように行ってください。</p> <p>• つり荷走行モードに切り替えてください。</p>
<p>7050G-2 7070G-2 7090G-2 7120G-2 7120G-2FS 7200G-2</p> <p>• つり荷走行は禁止</p> <p>荷をつって走行すると荷振れ、衝撃などにより、機械の転倒、破損による人身事故につながる危険があります。 荷をつっての走行はしないでください。 他の安全な方法で荷を移動してください。 やむを得ずつり荷走行する必要がある場合は、次の事項を厳守すると共に、不明な点は弊社にお問合わせください。</p> <p>• 事前に誘導者を決め、その指示に従って走行してください。 • 路面の平坦な状態の場所で行ってください。 傾斜している場所や地盤が軟弱な場所では、つり荷走行を行わないでください。 • つり荷は低い位置しに、荷振れしないように支持してください。</p> <p>• つり荷の巻き上げ高さは、地面から300 mm以下とし、地面にできるだけ近い状態にしてください。 • つり荷が万が一振れた場合は、つり荷をいったん地面に降ろし、振れを止めてから再度巻き上げてください。 • 走行は、低速(0.5 km/h)以下でつり荷に振動を与えないように行ってください。 • 走行は、クローラの前進方向で行ってください。 • つり荷は、前方つり姿勢(クローラの前進方向)にしてください。 • 走行中は、巻き上、ブーム起伏および旋回はしないでください。 • 旋回ロック、旋回ブレーキをかけてください。</p> <p>• ブーム長さは、本機の仕様最大の1/2 以下にしてください。</p> <p>• 走行姿勢のつり上性能は、本機の定格総荷重の1/3 以下にしてください。 • 電線の下などを通過するときは、十分な間隔をとってください。 • つり荷をつまま機械を方向変換しないでください。 機械を方向変換するときは、つり荷をいったん地面に降ろしてください。 方向変換に必要なだけ巻き上ロープを繰り出し、巻き上ロープをゆるめ、機械に負担をかけないように行ってください。</p>	<p>BM800G-2 BM1000G-2 BM1500G</p> <p>• つり荷走行は禁止：BM800G-2、BM1000G-2 • つり荷走行の場合：BM1500G</p> <p>荷をつって走行すると荷振れ、衝撃などにより、機械の転倒、破損による人身事故につながる危険があります。 荷をつっての走行はしないでください。 他の安全な方法で荷を移動してください。 やむを得ずつり荷走行する必要がある場合は、次の事項を厳守すると共に、不明な点は弊社にお問合わせください。</p> <p>• 事前に誘導者を決め、その指示に従って走行してください。 • 路面の平坦な状態の場所で行ってください。 傾斜している場所や地盤が軟弱な場所では、つり荷走行を行わないでください。 • つり荷は低い位置しに、荷振れしないように支持してください。 • 走行路面の状況として突起高さが20 mm以下の路面でのみつり荷走行が可能となります。 • つり荷の巻き上げ高さは、地面から300 mm以下とし、地面にできるだけ近い状態にしてください。 • つり荷が万が一振れた場合は、つり荷をいったん地面に降ろし、振れを止めてから再度巻き上げてください。 • 走行は、低速(0.5 km/h)以下でつり荷に振動を与えないように行ってください。 • 走行は、クローラの前進方向で行ってください。 • つり荷は、前方つり姿勢(クローラの前進方向)にしてください。 • 走行中は、巻き上、ブーム起伏および旋回はしないでください。 • 旋回ロック、旋回ブレーキをかけてください。</p> <p>• つり荷走行が可能なブーム長さは、12.2 m～27.4 mです。：BM800G-2 つり荷走行が可能なブーム長さは、13.8 m～29.1 mです。：BM1000G-2 つり荷走行が可能なブーム長さは、18.3 m～30.5 mです。：BM1500G</p> <p>• 電線の下などを通過するときは、十分な間隔をとってください。 • つり荷をつまま機械を方向変換しないでください。 機械を方向変換するときは、つり荷をいったん地面に降ろしてください。 方向変換に必要なだけ巻き上ロープを繰り出し、巻き上ロープをゆるめ、機械に負担をかけないように行ってください。</p>